

福良港湾口防波堤整備検討委員会（第 1 回）

～ 議事概要 ～

1. 委員会の概要

日 時：平成 25 年 8 月 27 日(火)14:00～16:00

場 所：南あわじ市南淡公民館 2 階会議室

出席者：辻本 剛三 委員長	神戸市立工業高等専門学校 都市工学科 教授
反田 實 委員	兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター 技術参与
溝口 薫 代理	福良地区自治会 副会長（原孝委員代理）
由井 宏 委員	淡路島観光協会 南あわじ地区役員
前田 若男 委員	福良漁業協同組合 組合長
河野 博 委員	ジョイポート南淡路(株) 常務
増井 健一 委員	(株)増井造船所 社長
中島 靖 委員	国土交通省 近畿地方整備局 神戸港湾事務所長
平井 住夫 委員	兵庫県 県土整備部 土木局 港湾課長
藤長 義馬 委員	兵庫県 淡路県民局 総務企画室長
大瓦 巖 委員	兵庫県 淡路県民局 洲本土木事務所長
入谷 修司 委員	南あわじ市 総務部長
山崎 昌広 委員	南あわじ市 都市整備部長

2. 議事概要

○次の内容について議論し、結論を得た。

(1) 湾口防波堤の整備目標

- ・ L 1 津波は安政南海地震並み（M8.4、津波高さ T P +5m 程度）を想定し、避難を前提に浸水被害を軽減する。
- ・ L 2 津波は最大クラスの津波（M9.0、津波高さ T P +9m 程度）を対象として、速やかに避難するとともに、L 1 津波（T P +5m 程度）並みに低減させる。
- ・これらの目標を基本にシミュレーションを行い、その結果を踏まえ整備目標について議論する。

(2) 検討フロー、スケジュール

- ・四季の潮流水質調査、港湾利用への検討のため、H25 年度～H26 年度の 2 箇年かけて検討する。
- ・水質・潮流への影響解析を踏まえ、H25 年度に委員会案を選定し、H26 年度に構造形式（固定式、可動式）、配置及び実施の可否について最終決定する。

(3) 津波対策の方向性

- ・湾口防波堤を設置し、津波を減衰させ、津波の流速、到達時間の遅延、浸水面積の縮小を図り、避難を前提に浸水被害を低減させる。
- ・津波対策に当たっては、漁業活動、造船、観潮船など、平常時の港湾利用との整合を図る。

(4) 湾口防波堤の配置及びシミュレーションケース

- ・配置については、「湾口が狭くなっている湾口周辺部」及び「洲崎・煙島等既存の防波堤を活用できる箇所」について、単独によるもの、また両者組み合わせによるもの等複数案について、津波被害低減効果等のシミュレーションを実施する。
- ・構造については、固定式・可動式を踏まえシミュレーションする。

(5) 港湾利用者へのヒアリング

- ・漁業関係者、船舶関係者へヒアリングを行い、港湾利用の実態を把握し、今後の検討に活用する。

○委員会における主な意見

- ・漁業への影響等について議論した上で、湾口防波堤を整備する方向で検討して欲しい。
- ・漁業者は高齢化しており、漁船が被災すると再建が困難なため、整備目標はできるだけ高く持ってほしい。
- ・浸水被害を軽減するとあるが、レベル1津波は浸水しない方が望ましい。
- ・全国的な津波対策は、「レベル1津波はハード対策でできる限り守る。レベル2津波はハード対策で守り切れないのでソフト対策と組み合わせていく。」という動向である。
- ・レベル1津波が非常に高いのが福良港の特徴である。レベル1津波高さがどの程度まで軽減できるかを示して、この委員会で整備目標を議論し検討して欲しい。
- ・湾口防波堤を可動式とする場合には、津波発生後に福良港が閉鎖されてしまい、船舶が沖合へ退避できなくなってしまうため、構造形式の検討にあたっては船舶の退避についても考慮すべきである。
- ・津波発生時の影響だけでなく、平常時の船舶航行への影響も含めて検討すべきである。
- ・湾口防波堤の本体に消波透水管を用いた海水導入の事例が示されているが、本委員会で検討するシミュレーションで海水導入の効果を検討すべきではないか。
- ・漁業への影響が軽減される、既設の洲崎防波堤の嵩上げ案も検討すべきである。
- ・資料の作成に当たっては、漁業者、港湾利用者にとってわかりやすい表現（潮流のノット表示など）としてほしい。

以上

備考：第2回委員会は、平成25年12月頃に開催予定。

<委員会の様子>

